

まち活勉強会 ～「やねだん」リーダー 豊重さんを囲んで～

- ◆ 講師 豊重哲郎氏（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民館長）
- ◆ 日時 2015年12月5日（土） 10時00分～12時00分
- ◆ 場所 運動公園住宅6号棟内コミュニティプラザ
- ◆ 参加者 6名

【勉強会の概要】

参加者から、現在の取り組みや困りごとなどから今日の勉強会でアドバイスをもらいたいキーワードをもらい、それに対して豊重さんからのアドバイスをいただくこととした。

【コミュニティづくりについて、自主財源の確保について】

（参加者からの質問）

1点は、災害公営住宅で共同花壇づくりに取り組みたい。花だけではなく、農園のような感じにしていきたいと思っている。もう1点は、現在は社会福祉協議会にふれあいカフェの運営をお願いしているが、来年度は人員、費用とも不足するため、区に運営を返したいとの申し出があった。役員会でどのように運営すべきか検討を始めているところであるが、参考になるようなアドバイスをお願いしたい。

（豊重さんからのアドバイス）

- ・ コミュニティの環境づくりには3つあると考える。1つは、コミュニティのムード作り。笑える環境、楽しめる環境づくり。2つ目は、音楽と花のある地域づくり。3つ目は、生産性を見込んだ環境づくり。
- ・ 僕なら、まずはプロジェクトチームを作る。住民の分析ができれば、庭づくりに必要な花づくりや土づくり、剪定技術を持った人等、何かに長けた人が必ず見つけれられる。
- ・ 自分たち流の企画を行政へ提案するための提案をやってもらいたい。自分達で考えるまちづくりを、今日からスタートしてほしい。
- ・ やねだんのやり方を参考にご紹介すると、外から40名が来たら、10万円のお金（外貨）が落ちるための仕組みを作った。マーケティングをして、企業としてのビジネスの方程式を企画する必要がある。視察対応したら、それに対する対価を求めることも必要。誰も損をしない方程式を考えること。
- ・ 私だったら、花を見せる。その後、実を採取して食べるか油を搾れる品目を植える。2つ目は養蜂である。稼ぐために、養蜂農家と契約して、休耕地に蜂蜜が採れる花（レンゲ等）を作って、花を見せて、蜂蜜を売る。
- ・ コミュニティで集って笑って、ビジネスにつながれば最高である。もう1つは、コミュニティは教育の受け皿にもなることが重要である。
- ・ これがないからできない、ということはない。既成概念を0にして、自分で方程式を組み立てて、数字

で説明することを、習得してほしい。

- ・ 自主財源確保に向けては、生産してお金を蓄えるだけでなく、例えば、医療費や介護費用が他地域よりも低い＝コミュニティ活動の効果であることを導き出し証明することが必要であることにも気づいてほしい。税金を使わないことも、財源のプラスになっていくのである。

(参加者のコメント)

これまでは自分達で消費することしか考えてこなかったが、自分達で収穫したものをラッピングして販売していくということを発想していきたい。その財源をカフェ運営に充てれば、区で継続できるのではないかと思っている。

【子どもや若い人、興味のない人たちの参加について】

(参加者からの質問)

どうすれば、若者やこれまで出てこなかった人たちがまちづくりに参加してくれるようになるのか。主人公は地域の人たちであるが、主人公を輝かせるためにはどうすればよいか。

(豊重さんからのアドバイス)

- ・ 参加者を増やしていくためには、あまり動かない人達を集める組織（プロジェクト）も有効。バスツアーやピクニックなどで、顔を合わせる機会を作っていき、参加意欲のタイミングにすればよい。
- ・ 子ども達の組織（子供会）等と連携して、その親子に投げかけることも有効。子どもが動けば、親は動く。子どもの組織を見直して再スタートできれば、テーマ次第では動くと思う。子ども達をいかにその気にさせるか、そこに思考力、想像力を働かせてほしい。やねだんでは、地域のイベント時に、教育的な観点で中高生に進行役をさせている。子ども達の出番・役割を作っているのである。
- ・ 地域には反対者もいるが、無関心層も多い。人は感動すると、感謝する。まずは、心の参加である。やねだんでは、まずは名前と呼んであげる活動から始めた。そうするとみんな笑顔になり、快話（愉快）になる。私は、やねだんでこの3つのことを心掛けてきた。
- ・ 子どもには、アドリブや即興を身に着けさせることも大切である。地域づくりは脚本のない物語であり、だから面白い。
- ・ 学校につなげると、何百人に繋がる。地域づくりにおいては、学校にも月1回程度、定期的に訪問する等、情報が入るようにつながりを作るべきである。

【高齢者やハンディを持った方も含めた参加について】

(参加者からの質問)

高齢者を含めて、介護が必要な方や障がいを持った方もいらっしゃると思う。全員参加を考える時に、身体的な理由を持っている人は、どのような参加をすればいいのか。

(豊重さんからのコメント)

- ・ 参加には2通りある。1つは健常者。この人たちは汗を流して活動してもらえばよい。もう1つは、高齢者。それらの方には、シルバーカードを提供して、グランドゴルフなどに参加してもらっている。その中間の人には、語り部等、自分の持っている知識や技術を披露する場を提供している。それが生き

がいにもなるのである。

- ・ 動きなさい、出てきなさいと言うより、話題性で参加させる方法を考えることが重要。

【全員参加のポイント】

(豊重さんからのアドバイス)

- ・ 1つのテーマでは全員参加が出来ない。テーマとして、1つは「生きた福祉」。高齢者の中の高齢者対策や、1人暮らし（無縁墓）、足腰弱者等へどのように対応していけばよいか福祉対策。
- ・ 1つは、「青少年対策」。子ども達が動けば親も動く。しかし、基礎学力がままならない子どもは、親も含めて奉仕活動にもなかなか出にくい状況がある。その逆転は、基礎学力の徹底・チェックのための寺子屋を開いて、分からないところの入り口を見つけてあげる事。これは、地域にしかできない青少年対策である。
- ・ もう1つは「将来」である。将来、やねだんは、私から次代にバトンタッチした時にどうなるのか。将来を考えて、寺子屋や奨学金制度を継続して、安定した自主財源、ブランド化した商品があれば、引き受けた次代は、安心して取り組める。

【やねだんの取組からの提案】

(豊重さんからのアドバイス)

- ・ やねだんでは、人の集う仕組みとして、宿泊の出来る公民館と、公民館に健康増進を目的として移動式のボーリングレーンを作っている。簡単な高齢者と若い子供たちが使える遊具を作ってはどうか。集って笑えるものが考えられればいいのではないか。
- ・ 300円の町会費をなくす提案をすれば、皆さんにも喜ばれると思う。そのためには、300円×人数分の財源をどう確保するかが必要。
- ・ 人を「巻き込む」、地域を「巻き込む」という言葉は絶対使わないでほしい。巻き込まれたら、立場を変えたらどんな気持ちがするだろうか。「人材」も「人財」である。

出会いをつくってくれてありがとう

1人との出会いを大切に。

以 上